

## 西富亮介の紹介



### プロフィール

1995年(平成7年): 法学部政治学科入学

1999年(平成11年): 政治学科卒 / メディア・コミュニケーション研究所(旧新聞研究所)修了

所属ゼミ: 学科:久保文明研究会(政策過程/アメリカ政治) / 研究所:林紘一郎研究会(メディア経済学)

### 論文:

学科:「規制改革の政治学 - 1991年連邦預金公社改善法にみるアイデアの政治 -」(『政治学研究』29号所収)

研究所:「情報化社会と高等教育」

2006年(平成18年)現在

トーマツコンサルティング(株) マネジャー

東京大学大学院 教育学研究科 大学経営・政策コース 修士課程2年

情報セキュリティ大学院大学 客員研究員

### 参考サイト

公式ブログ: <http://www.tommy1999.com/>

応援コミュ@GREE: [http://gree.jp/?mode=community&act=view&community\\_id=38037](http://gree.jp/?mode=community&act=view&community_id=38037)

応援コミュ@MIXI: [http://mixi.jp/view\\_community.pl?id=892980](http://mixi.jp/view_community.pl?id=892980)

評議員選挙オフィシャルサイト(慶應義塾): <http://www.keio.ac.jp/information/060309.html>

## 本人より挨拶

今回、卒業生評議員選挙に立候補しようとしている西富です。

前回(2002年)にも立候補を表明し、規定数(100名以上150名以下)を上回る方の署名・捺印をいただいて立候補させていただき、今回も立候補を目指して、現在署名集めに奔走しています。

評議員会は、理事会の上にある、慶應義塾の最高意思決定機関です。(下記参照)特に義塾の評議員会は、私立学校法によって評議員会の制度が規定される前からある由緒正しい機関であり、その重要性和格式の高さから、構成員である評議員は基本的に、「社会的な地位がある人たちが」選出されています。このうち、30名分が今回の「卒業生評議員選挙」の対象枠となっています。

ここで、私が着目したのが『評議員会における「卒業生評議員」の意味』についてです。「社会的な地位がある」人を集めることが評議員会を構成することに必要なのであれば、なにもわざわざ30万人近い塾員を選挙権者にして選挙を行う必要など、ないと言って良いのではないのでしょうか?義塾に関係のない人までも巻き込んでしまっている現状を考えると、意味を見出すことは難しいのではないのでしょうか?

では、選挙による卒業生評議員の枠が存在する意味は何なのでしょう?それに対する私なりの答えは「多様なバックグラウンドを持った人材を評議員として受け入れる」ということだと思のです。

そう考えてみれば、折角のこの制度の効用を生かす機会を逃して良いはずはなく、理事会推薦の候補者の方々がひしめく中への果敢な(無謀な?)挑戦となりますが、前回に引き続き立候補することとしました。

私自身は、現在でこそ「経営コンサルタント(主な領域は組織・人事領域)」として働いていますが、自分がこの道に進んだそもそもの出発点は「意義は高いんだけど、人材の能力が無駄遣いされ、機能的なマネジメントも行われていない組織」をどうにかしたいという思い(この状態にあるものこそ、非営利組織が典型だと思っているわけですが)から始まっています。

以来、一般企業を中心とするコンサルティングを行いながら、そこで行われているマネジメントの考え方やツールが、どのように非営利組織(特に大学のような組織)に適用可能かどうか)を考えてきました。

特に「大学」に関しては、従来より専門的に大学の経営を学んでみたいと考えていました(一時期は米国留学も考えました)。そして、そのさなかに偶然にも、昨年2005年に東京大学大学院に「大学経営・政策コース」というコースが開設され、それ運良く入学することができました(「裏切り者」と揶揄されることもありますが)。今では、仕事以外の時間を有効に使いながら、平日夜や土曜に本郷に通って大学経営について学んでいます。

一般選出枠の本来の意味を取り戻し、2008年に控えた創立150年に向かって、義塾のガバナンスをより透明性の高いものにしていくために、ぜひご協力いただければと思います。

署名・捺印のお願い： もし賛同していただけるのであれば、

1) 署名簿をダウンロード (<http://hyogiin.up.seesaa.net/image/shomeibo.pdf>)

2) 署名簿にご自分の氏名、捺印、卒業年 & 学部、住所を記入(できれば、一人でも多くの方にご協力いただければ助かります)

3) 西富宛に郵送(郵送先は、[candidate\\_tommy@hotmail.co.jp](mailto:candidate_tommy@hotmail.co.jp)まで連絡をいただければお教えします

をお願いできればと思います。

評議員会とは：

慶應義塾の最高意思決定機関(理事会より上に位置)

定数は、95名以上100名以下。任期は原則4年。

内訳： 教職員評議員【10名以上15名以内】(塾内の学部・諸学校を複数の選挙区に分け教職員から選出。任期2年)

卒業生評議員【30名】(これが、選挙枠。全塾員を選挙権者として実施。一般推薦は100名以上150名以内の署名・捺印が必要)

推薦評議員【25名】(前期の評議員会により指名された者)

塾員評議員【30名】(選挙終了後、卒業生評議員と推薦評議員が推薦した塾員)

「選挙」の洗礼を受けるのは、「教職員」枠15名以内と、「卒業生」枠30名のみで、定数の半数以下。また、「卒業生」枠については、一般塾員による推薦は毎回3名前後で、それ以外の50名強の候補者は理事会推薦によって選挙に立候補している

何卒よろしくお願い申し上げます。

## 友人の推薦文

平成11年政治卒です。西富君の同期に当たります。4年前の評議員選挙において西富君当選のためにがんばりましたが、残念な結果に終わりました。私は、今回の評議員選にあたり西富君当選のためにまたがんばろうと思っています。以下は私が西富君を応援する3つの理由です。

1、慶應の未来を決める評議員会であるのに若い世代がない。

評議員メンバーの中心が高齢の塾員や大企業経営者であるということは、至極もったもな事だと思えます。ただ、20代から40代の塾員の声はどこへ行ってしまうのでしょうか。衆議院議員でさえ、最年少は26歳。老若男女、さまざまな職業の人たちが活力ある日本を作っています。私たちの愛する慶應義塾が世界にますます発展していくためにも、評議員メンバーに西富君のような若く才智あふれ、独立心旺盛な人物が選出されてもよいのではないのでしょうか。

「独立の気力なき者は必ず人に依頼す、人に依頼する者は必ず人を恐る、人を恐る者は必ず人にへつらうものなり」(出典：『学問のすすめ』)

2、大学経営改革のため、社会人大学院で勉強してきた。

前回評議員選挙以前より、西富君は大学経営に関して勉強をしていましたが、評議員選挙後も社会人大学院生として、「大学経営」を学んできた人物です。また実社会においても、経営コンサルタントとして本職でも活躍しています。

「天は人の上に人を造らず 人の下に人を造らず」(出典：『学問のすすめ』)

福沢先生が言いたかったのは、みんなが平等、ということではありません。平等なはずなのに、貧富の差があるのはなぜか？ それは、学問をしているか、していないか、その差がそのまま貧富の差になっているからだ。だから、学問をきなさい、というのが、先生の教えです。

3、若い塾員代表としての西富君。

評議員選挙を経験されている塾員の方はご存知でしょうが、この選挙は公職選挙法が適用されるわけでもないので、熾烈な戦いとなります。聞くところによると、若い塾員は上意下達方式で票を会社の関係など、しがらみのなかへ投げていることが多いそうです。なぜそうなるかといえば、評議員選挙に関心がないからだと思えます。

だからこそ、西富君のような若い塾員が投票の選択肢のひとりとして出馬することに意義があると思っています。若さゆえ、評議員になって何ができるんだと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、慶應義塾の将来のために、若い塾員の声を聞くことのできる西富君を応援したいと思っています。

「見込みがあればこれを試みざるべからず。未だ試みずして先ずその成否を疑う者は、これを勇者といふべからず」(出典：『学問のすすめ』)

### 義塾評議員会 その虚と実

#### 第三十一期評議員会始動へ 形骸化も否めず

評議員会は最高議決機関として義塾運営に対する、いわばご意見番である。第三十一期評議員には来年四月に誕生する日本郵政公社初代総裁を務める生田正治氏や劇団四季を主催する浅利慶太氏、衆議院議長の綿貫民輔氏らが選出されている。評議員会さながらサロンの様相も呈している。

#### 「異端」の登場

今年度は四年に一度の評議員会の改選時期にあたる。なかでも卒業生評議員選挙は一部を除き大企業経営者が候補者の大部分を占めているのが実情だ。

だが今回、評議員選挙に一石を投じる動きが起きた。コンサルティングファームに勤める会社員、西富亮介氏が塾員百五十九名の推薦を集め、立候補したのだ。塾長、常任理事などで構成される理事会から推薦された大物OBがひしめくなかで、平成十一年卒・二十七歳の立候補者は、異端の存在である。

だが、実際の選挙戦では「組織の壁はやはり厚かった」と西富氏は語っている。評議員選挙は、組織をあげて候補者を当選させている実態がしばしば指摘されている。西富氏も、推薦者に名を連ねた有権者の票が、投票の際に他陣営に押さえられていたこともあったようだ。今回の選挙では涙を呑んだものの、それでも自身の推薦者の他に多くの塾員が投票してくれたという。「こいつは面白そうだといった好奇心で投票してくれ端だと思います。私のような立候補者も必要だと思うので、また立候補したいですね」(西富氏)

#### 評議員会の実態は...

義塾の最高議決機関である評議員会。規約で予算などの重要事項を議決し、最終的な塾長候補者を選任する権限が付与されている。だが一部では評議員会は有名無実化しているとの指摘がある。実態はどうか。

慶應義塾では、主な施策は週に二度開かれる常任理事会で立案、討議されている。だが、重要事項に関しては理事会や評議員会に上程した上で決議を得なければならないと規約で規定されている。

義塾職員として理事待遇の塾監局長まで勤め、現在、湘南藤沢キャンパスで教鞭を執る孫福弘・総合政策学部教授は次のように語っている。「評議員会はやや形式的になってしまっていることは否定できない。ただ、本業の傍らで評議員の職に就かれた現実を鑑みれば、やむを得ないことなのだろう」

評議員会に出席した経験のある孫福教授の話が事実ならば、評議員会は本来の役割を十分に果たしきっていないことになる。他方で廣瀬利明・総務部課長は「評議員会では一時間から一時間半程度、しっかりした議論がなされている」と語り、評議員会の形骸化といった批判は正鵠を得ていないとの認識を示している。

だが、今回評議員選に立候補した西富氏は、評議員会に対する情報の提供システム懸念を示している。「現在、評議員会には理事会から上がってきた情報だけで議論がなされている。評議員会には、さまざまな情報を集めることができるように新たな組織を設置するなどの対策が必要とされるのではないだろうか」(西富氏)

#### 評議員会の構成に課題

義塾を代表するOBが集まる評議員会だが、一方で評議員が高齢の政治家や大企業経営者に偏している事実を無視することはできない。当然のことながら、年齢や職業を理由に評議員の資質を問うことはできない。しかし、国際社会に慶應義塾が伍してゆくためには多様な世代や職業で構成された評議員が必要となる。今回の選挙では西富氏を除けば、昭和四十八年卒業の候補者が最も若い構図となっており、候補者のほとんどが企業経営者である。孫福教授と西富氏が多様な人材の登用も必要との認識を示す通り、評議員会の活性化を図るためにも多様性を内包した評議員会へと脱皮を図ることが重要だろう。

最高意思決定機関でもある評議員会には思い課題が投げかけられている。